



# のもとよしみ 通信

2013年7月 No.27



赤ちゃんからお年寄りまで  
いきいきと暮らせるまちに

事務所 〒252-0182 相模原市緑区沢井1215 TEL/FAX 042-687-5119  
Email iki-iki-nonohana@nifty.com http://homepage2.nifty.com/nomotoyoshimi

## 女性が魅力を感じるまちに

2年間の副議長職を終えて、6月議会では2年半ぶりに一般質問を行いました。対面式の質問席（3月議会から設置）から質問し、旧藤野町議会をなつかしく思い出しました。1問1答制にすれば、もっとわかりやすく、議論も深められます。早期に実現できるように働きかけていきます。

今回は、人口減少時代を見据えて、公共サービスはどうあるべきかをテーマに3つの質問をしました。公共施設（ハコモノ）をどうしていくか、公民館の役割と活用はどうあるべきか、女性の就労と子育て支援についてです。相模原市では人口はまだ増えていますが、日本全体では減少が始まり、今後は、団塊の世代の高齢化に伴って、特に都市部で急速に高齢化が進みます。そこで、重要な視点は次の3つと考えています。

1つめは、人口増加、経済成長を前提とした政策から方向転換すること、2つめは、高齢化と人口減少が進んでもわたしたちが安心して暮らせるように今から準備すること、3つめは、もっと女性が魅力を感じるまちづくりに力を入れることです。「女性に選ばれるまち」こそ、持続可能な都市だと思いませんか。

デフレ経済の原因は、人口減少にあるとも言われます。一時的な需要をつくり、借金を増やす公共事業ではなく、お金と物（サービス）が地域に循環するしくみづくりにこそ、投資すべきです。安全な食べ物をつくる人、介護や医療、保育などの現場や中小企業などで、汗を流し、真面目に働く人、知恵と工夫を凝らして良質な物を創り出す人たちが、正当な報酬を得て、安定して働けるしくみをつくる。そうすれば、少子化にも歯止めがかかり、誰もが暮らしやすい社会に近づく、そんな思いで質問をし、今後も活動していきます。

### 第21回 議会報告会のお知らせ

#### こうだといいな! 相模原の子育て環境

女性の就労と子育て支援について一般質問の回答と市の現状を報告します。その後、理想の子育て環境についてお聞かせください。お待ちしております。



日時：8月10日（土）10時～12時

場所：ソレイユさがみ セミナールーム 4  
（橋本駅北口サティ6階）

参加費：無料

日時：8月11日（日）10時～12時

場所：桂北公民館 1階研修室（相模湖駅すぐ）

日時：8月11日（日）14時～16時

場所：藤野中央公民館 小会議室（藤野駅徒歩4分）

### 9月議会の日程

- 8月26日（月）本会議（提案説明）
- 9月3日（火）本会議（代表質問）
- 4日（水）本会議（代表質問、決算特別委員会）
- 9月6日（金）～12日（木）各常任委員会
- 24日（火）決算特別委員会
- 25日（水）～27日（金）本会議（一般質問）
- 30日（月）本会議



\*のものは代表質問をする予定です。ネット中継あり。

### 25年度

#### のもとの仕事

議席番号：24

会派：颯爽（さっそう）の会（5名）  
（市政運営に是々非々で臨み、活発な政策提言をめざします）

民生委員会 水源地域対策特別委員会

議会基本条例に関する特別委員会

都市計画審議会委員





のもとよしみの一般質問

## 公共施設のマネジメントの推進について

公共施設の管理運営にかかるコストのうち、市の負担分は428億円（平成20年度から22年度までの平均）、市の歳出額の約19%ほどです。今後、人口急増期（昭和40年代から50年代前半）に整備された施設の改修や更新（建て替え）の費用が、さらに増えていきます。そこで、市は「公共施設の保全・利活用基本指針」を定め、今後30年間で20%の延べ床面積を減らし、公共サービスの内容や運営方法、利用料や使用料を見直して、コストを削減する方針です。

### 「戦略上重要な施設」とは？

ハコモノを削減するには、今ある延べ床面積を増やさない「総量の抑制」がポイントになります。基本指針案では、「新規の施設整備は原則行わない」としながら、「今後のまちづくりの戦略上重要な施設の整備」は除外されています。

どんな施設か尋ねたところ、「リニア中央新幹線の新駅設置に伴う施設整備や相模総合補給廠の一部返還などのまちづくりにかかる施設整備のほか、清掃工場などのごみ処理施設や火葬場など」のこと。

「総量の抑制は必要」としつつ、「人や企業に選ばれる都市づくりに資する施設の整備なども進めていく必要もある」との答弁でした。



### どの施設にも総量抑制の考え方で

案では、施設整備ルールとして、今ある施設を廃止するなど整備面積と同程度以上の面積を削減し、総量の抑制を行うこととしています。

この考え方は、「戦略上重要な施設」にも適用されるのか質したところ、「可能な範囲でその考え方を踏まえながら」と、あいまいな答弁でした。

市民に身近な施設は、ルールを決めて削減する一方で、市の意向で新たにつくる施設はルール外とすることは、市民に理解されないのではないのでしょうか。「総量の抑制」は守るべきと主張しました。

### 今後のスケジュールは急ピッチ

基本指針は8月頃までに策定し、来年度半ばまでには「地域ごとの公共施設の適正配置」を検討。26年度中に「公共施設マネジメント推進プラン」、27年度中に「施設分類別計画」を策定して、28年度からの後期実施計画に反映する予定です。

「地域ごとの公共施設」とは、学校やまちづくりセンター、公民館など身近な地域施設で、まちづくり会議を活用するなどして検討を進めるとの答弁でした。使用頻度や人口当たりの面積を基に削減するのではなく、地域住民と話し合いながら、必要な公共サービスは確保しつつ、コストの削減を図る方法を見出すよう働きかけます。

## 人口減少社会における公民館のあり方について



「原則無料」の公民館の有料化が、「受益者負担のあり方」の観点で検討されています。本年5月には、社会教育委員会議から教育委員会に、「公民館施設（部屋）利用の受益者負担の導入について、市において検討する必要がある」との建議書が提出されました（配慮事項の記載あり）。今後の教育委員会での議論が注目されます。

都市部での急速な高齢化や孤立化、格差社会の広がりが懸念される中、地域住民主体のまちづくりを進めることは大変重要です。

のめとは公民館を地域の拠点として積極的に活用し、無料の原則は守るべきと訴えました。

教育長は、地域課題・生活課題の解決をはじめ、地域づくり、人づくりに果たす公民館の役割は、ますます大きくなっていく、公民館職員の人材育成に努めると答弁。受益者負担のあり方については、ワーキング・グループを設置し、慎重に検討していくとのことでした。

また、夕方5時以降の印刷機の使用を求めたところ、検討していきたいとの前向きな回答がありました。

## 女性の就労と子育て支援について

本市でも生産人口（15歳～64歳）は、すでに減少しています。団塊の世代の大量退職で、今後ますます働く人は減り、高齢化が進みます（資料①）。製造業中心で発展してきた本市では、結婚後仕事を辞める女性の割合が高く、子育て後の復職も低い傾向にありましたが、近年パート労働を望む女性が増えてきました（資料②）。多様な働き方や子育て環境の充実が急がれます。

### 🌻 「ソレイユさがみ」の活用を

橋本にある男女共同参画センター「ソレイユさがみ」。6月3日、同じフロアに「総合就職支援センター」がオープン。積極的に連携を図り、女性相談と就職支援を充実させるよう求めました。また、ソレイユさがみのホームページは、女性が求める情報にアクセスしやすいように、工夫を求めました。

さらに、女性の起業支援、ワーク・ライフ・バランスに配慮した企業を増やすこと、就労に結びつく効果的なセミナーの実施などに力を入れるよう促しました。

### 🌻 津久井地域の保育環境の充実を

夫婦で家計を支える家庭が増え、保育所待機児が問題になっていますが、地域により待機児の偏りが見られます。津久井地域では、旧市と同様の保育サービスが実施されておらず（資料③）、引っ越す家族があります。また、健康診断の案内が届いても子どもを預けられず、検診に行けないという声も。サービス格差をなくし、津久井地域で子育てしやすい環境を整えるよう求めました。市長は、子ども・子育て支援制度への移行も見据え、一時保育や延長保育の可能性を検討すると答弁しました。

子どもの遊び場の確保など、子育て環境の充実に取り組みます。ご意見をお寄せください。

### 資料③ 旧市（緑区）と津久井地域の保育所の比較

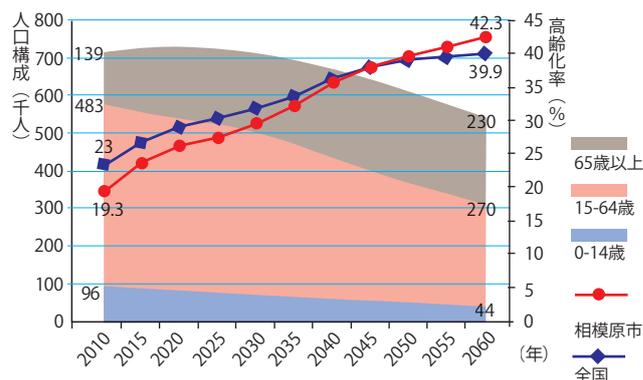
	受入年齢	月～金曜日		土曜日		一時預かり	特定保育（※3）
		開所時間	延長保育	開所時間	延長保育		
旧市（緑区）の保育所（19園）	8週（例外あり） （※1）	7時～18時	19時か20時	7時～18時	19時か20時 （5園）	○（12園）	○（12園）
津久井地域の保育所（11園）	1歳（例外あり） （※2）	7時か8時～18時	19時（5園）	7時か8時～13時	×	×	×

※1 3か月1園、1-3歳未満1園

※2 8週1園、10か月2園

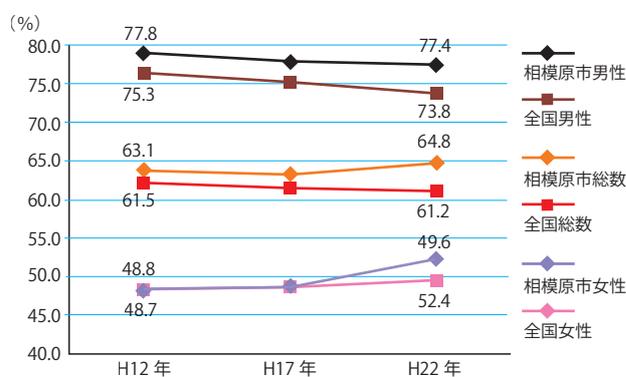
※3 就労、就学等で継続的に週2回以上、各日4時間を超えて保育を希望する場合に利用できる

### 資料① 相模原市の人口構成・高齢化率の推移



出典：「2010年国勢調査に基づく相模原市の将来人口推計」、総務省統計局「老年人口割合（2010年国勢調査）」より作成

### 資料② 全国と相模原市の労働力率（性別）



※労働力率…就業者と完全失業者の合計である「労働力人口」が15歳以上に占める割合

### 🌻 プロジェクトチームの立ち上げを

女性の暮らしと仕事を支えるには、その人をトータルにサポートする必要があります。ところが市の窓口はバラバラです。たとえば「母子家庭等対策総合支援事業」では、養育費の相談は各区の「子ども家庭相談課」、就職相談は「就職支援センター」、女性相談は「ソレイユさがみ」。しかも、運営は、市、委託事業者、指定管理者と異なります。**のものと**の調査でこの連携ができていないことがわかり、改善を求めました。

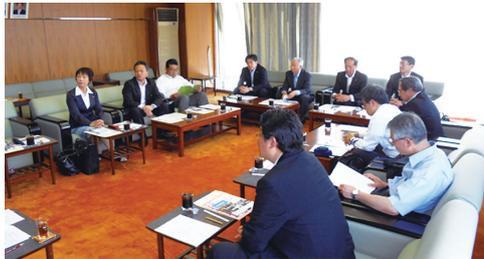
女性が働きやすく、暮らしやすい相模原市にするためには、庁内の横断的な話し合いと戦略が必要です。プロジェクトチームを立ち上げ、取り組むよう求めました。答弁では、大変重要な課題であり、男女共同参画推進会議を中心に実効性の高い対策を検討していくとのことでした。

## 議会基本条例に関する特別委員会

標記特別委員会では、3月議会で議会基本条例案を提案することを目標に議論しています。颯爽の会として初めて参加した7月1日の委員会で、会派の考え方を述べました。

大切なのは、条例をつくることではなく、議会改革を進めることであり、その柱は4つ。①行政へのチェック機能を強化すること、②政策提案の機能を充実すること、③議会の意思を決定する過程で討議による合意形成を心がけること、④市民によく見え、市民が参加する議会を実現することです。また、条文は、市民にわかりやすい言葉を心がけたいと発言しました。以上の意見に対し、特に異論は出ませんでした。

実のある議論を積み重ねていきたいと思えます。



岸和田市議会  
視察(5/22)

## もっと広がれ！ 冒険遊び場

「けがと弁当自分持ち！」を合言葉に、子どもが自分の責任で自由に遊ぶ冒険遊び場（プレーパーク）。昨年度から、市と「相模原に冒険遊び場をつくる会」の協働により、淵野辺キャンプ留保地で「銀河の森プレーパーク」が運営されています。6月8日には、2012年度の活動報告がありました。

毎週水曜日と週末が活動日。100人前後の子どもやパパ、ママが訪れます。水遊びに基地作り、たき火に焼き芋、チャンバラごっこ、木工にハンモック、虫取りに桑の実やムカゴ取り……。誰でも参加OKです！報告では、子どもたちの笑顔や真剣な表情をいっぱい見ることができました。南区にも「森公園自由遊びの会」（旭森公園）があります。

生きる力を育む冒険遊び場が、市内各地で展開できるよう、みなさんと力を合わせていきたいと思えます。



## 線引きの義務は廃止に！

政令市に義務付けられていた線引き。旧津久井3町のみなさんの必死の署名活動や国、県、市への陳情が実り、この度、都市計画法施行令が改正され、津久井地域は線引きをする義務がなくなりました。これぞ地方分権。地域住民の力が国を動かしたのです。

政令市で唯一、線引きをしなかった相模原市。これで、正々堂々と市が主体的に津久井地域の実情に合わせたまちづくりを進めることができます。都市計画審議会等でしっかりと議論し、津久井地域の土地活用と保全に努めていきます。



## ご存じですか？ 『子育てガイド』

検診、相談、遊び場  
子育て支援策  
助成制度など

子育て環境に関するご意見をもとまでお寄せください。

## 祝 「吉野宿ふじや」再開(7/2)

国道20号沿いにある「吉野宿ふじや」。築119年の町屋建築です。歩道整備のため、曳きやが行われ、同時にトイレを整備、展示も見やすくなりました。今年度から市立博物館とNPO法人ふじの里山くらぶで協働事業を行うこととなり、その第一弾として、リニューアルオープン展を開催中(9/1まで。月曜休館)。甲州街道にまつわる資料や藤野の暮らしを伝える民具などが展示されています。ぜひ一度訪ねてみてください。

合併前に懸案事項だった「藤野町郷土資料館」の存続。多くの方のご尽力により、新たなスタートを切ることができました！



相模原市ホームページより